

第1回「地域フォーラム」概要

開催テーマ 「協働と連携のまちづくり・奈良モデル」

日時 平成29年7月30日(日)9時30分～11時30分

会場 上牧町文化センター

資料説明	荒井奈良県知事
<p>奈良県の人口は減り始めており、30年後には109万人になります。ベッドタウンとして人口が急速に伸びた地域では、急速に高齢化、人口減少が進みます。</p> <p>今後は、若者が地域内で働く場をつくること、高齢者が地域で医療・介護のサービスが十分受けられ、安心した老後が送れるようにすること、女性にとって働きやすく、結婚しやすく、子育てしやすい地域にすることが課題となります。</p> <p>そこで、奈良県では地域間連携を推進し、市町村同士または奈良県と市町村の連携・協働を強化する奈良モデルを進めています。脱ベッドタウン、バランスのとれた地域づくりのための個別の具体的な支援の方策を発見して、実現を図ります。</p> <p>奈良モデルにおいては、県と市町村は対等な立場であり、国や他の地方公共団体と連携・協働ができるとの考えのもと、それぞれが持つ資源を、県全体で有効活用しようとするものです。</p> <p>具体的な取り組みとしては、11の消防本部を一つにまとめることで、消防署のない地域への派遣や、救急に対応できるようになりました。</p> <p>また南和地域の三つの公立病院を一つに統合することで、利用者数や救急搬送の受入数が増加しました</p> <p>他にも、ごみ処理施設の広域化、道路インフラの点検の委託、税収強化、市町村合同の水道施設設置、地域包括ケアシステムの構築に向けたモデル事業等に取り組んでいます。今後も、まちづくり、大和川の総合治水対策、京奈和自動車道周辺の工業ゾーンづくりなどに取り組んでいきます。</p>	

資料説明	森三郷町長
<p>三郷町では、天理市を中心とする10市町村で、ごみ処理の広域化などに取り組んでいます。ごみ処理の広域化により、焼却施設の建設費は、町独自の場合と比べて約66%の削減が見込まれ、また運営費でも、約12年で収支が逆転すると見込んでいます。</p> <p>ごみ資源化の独自の取組として、間伐材を木質ペレットとして、共同浴場、小学校などで使用し、燃料費の削減とごみの資源化を推進しています。</p>	

資料説明	今中上牧町長
<p>少子高齢化・人口減少問題に対応するため、上牧町が事務局となり、北葛城郡4町の連携による「すむ・奈良・ほっかつ！～移住プロジェクト～」に取り組んでいます。王寺町はテレビ等によるプロモーションの実施、広陵町は魅力体感イベントの開催、河合町は空</p>	

き家対策に取り組んだことで、北葛城郡全体で 155 名の転入超過となりました。

資料説明 平井王寺町長

王寺町では奈良県と協定を結び、王寺駅周辺のまちづくりの基本構想の作成を進めており、王寺駅の南に医療、福祉などの都市機能を集積させたいと考えています。また、周辺の歴史文化資源を活用して体験型のレクリエーションゾーンを整備し、宿泊施設の誘致と滞在型観光の推進により雇用確保につなげたいと考えています。

王寺町単独で取り組める施策には限界があるので、これからはテーマに合った自治体間の連携を進めていきたいです。

資料説明 岡井河合町長

移住・定住促進対策として「かわい浪漫プロジェクト」を実施し、パナホームと連携して町内の西大和ニュータウンの空き家の現状調査などを行っています。また、都市再生機構との連携により、UR賃貸団地の上階層に若い世代が入居してもらえるような取組を進めています。

この他、自治体クラウド化を葛城市などと協働して進めており、これから成果が出てくるのではないかと考えています。

意見 荒井奈良県知事

各町長からいろいろなアイデアをいただきました。

三郷町におけるごみの資源化について、間伐材から発電して県立高校の冷房設備に利用できたらよいと発想しました。

北葛城郡への転入超過について説明がありましたが、北葛城郡は転出者も多いので、若者や女性の転入・転出者の比率を調べたいと思います。

王寺町の駅前開発について、洪水対策とまちなかの交通対策をすることが大事だと思います。

河合町が実施するニュータウンの空き家対策に関連して、公営住宅が今後どのような役割を果たすのかが課題であり、また、貧困対策についても考える必要があると感じました。

意見	森三郷町長
<p>今日は奈良モデルを知っていただく良い機会になったと思います。奈良モデルによってさまざまな形で連携していきたいと考えています。</p>	

意見	今中上牧町長
<p>奈良県全体としてインバウンドのための道路網、宿泊地、食事についてしっかり話をしながら、県民一丸で他県に負けないように取り組む必要があると思います。</p>	

意見	平井王寺町長
<p>住民の方が、もっと奈良の魅力・良さを知ろうとすることで、住民としての誇りや、地域の良さの発信につながっていくと考えます。</p>	

意見	岡井河合町長
<p>これからの奈良は、まず自分のまち、地域を好きになることで、素晴らしい地域になっていくと思います。</p>	

意見	荒井奈良県知事
<p>地域の総力戦で工夫してやっていくことがわれわれの姿勢です。奈良県では健康寿命日本一の県になる10年計画を立てていますが、健康には地域の生活習慣の改善が必要です。また、効果が同じならジェネリック医薬品を使うなどの意識が地域にあれば、サービスは下がらずに地域の医療費が下がります。</p> <p>企業誘致の成功の大きな要因は道路整備です。用地買収が進めば道路は整備されますので、市町村と協力して進めていければと思います。</p>	

質疑応答①	県や市町村が連携するメリットはなんですか。(三郷町在住者)
<p>(荒井奈良県知事)</p> <p>人口が減少して市町村の財政も厳しくなる中、節約をして行政の水準を維持するためのもので、その具体的な例を作ることを目的としています。</p> <p>(森三郷町長)</p> <p>一町で考える時代ではなくなってきたと思います。人口が減少していく中で、いろい</p>	

ろな連携、地域間連携が重要になってくると思います。

質疑応答②

健康寿命を延ばすための取組を、これからも継続していくための県や町の取組についてお教えてください。(上牧町在住者)

(荒井奈良県知事)

健康寿命トップの長野県では野菜の摂取量が一位となっており、対して奈良県は低位です。もっと野菜を食べるためにどうすればよいか考えているところです。

(今中上牧町長)

住民自ら体操教室を各地域で開催するなど、健康に対する上牧町の住民の意識も高くなっています。今後若い人たちに取り組んでもらえるように進めてまいります。

質疑応答③

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた地域の経済と産業の発展のために、今後県と各市町村が連携していく観光施策はありますか。(王寺町在住者)

(荒井奈良県知事)

奈良を観光産業県にするには宿泊施設のほか、食、移動、おもてなしのホスピタリティなど地域の魅力が不足しています。今後は地域の観光資源を生かしてインバウンドの観光需要をどれだけ地域に取り込むかが大事になってきます。

(平井王寺町長)

西和地域は、関空から電車で約1時間、また、計画されている「おおさか東線」の開通により新大阪からも直通1時間で来られるようになるので、インバウンドに結びつきたいと思っています。市町村としては地域の魅力を高めていき、宿泊施設誘致などについては県からアドバイスをいただきたいです。

質疑応答④

奈良モデルについて住民に十分周知されていません。また河合町という地名も知られていません。今後県と市町村でどのように協力してプロモーション活動を行っていきますか。(河合町在住者)

(荒井奈良県知事)

地元の人に知ってもらうのはとても難しいですが、努力の仕方でもとても良いものになると思います。奈良モデルについて、全国の知事は先進的な取組をしていることを

知っており、地元でも周知の努力をしていきたいと思いをします。

(岡井河合町長)

河合町を知ってもらうために何が足りないか協議しているところで、知ってもらう努力を重ねていきたいと思いをします。

<当日回答できなかった質問に対する回答> ※回答は奈良県のみ

質問①	官民連携が今後ますます重要になると考えますが、奈良県には企業が少なく、インパクトのある連携をしているところも少ないように感じます。県として企業の誘致等について聞きたいです。(三郷町在住者)
<p>県では、企業立地を進めることが、県内経済の活性化や新たな雇用の場の創出につながると考えています。このため、これまでに3,700社を超える企業への働きかけや企業立地セミナーの開催、知事によるトップセールス等、積極的に企業誘致活動に取り組んできました。</p> <p>こうした取り組みの結果、平成19年から28年の10年間に於いて、261件の企業立地を達成し、今後の採用予定も含め、新たに3,000人を超える雇用が創出されています。</p> <p>今後も、目標としている4年間で100件の企業立地とそれに伴う1,000人の雇用の場の創出に向けて、また、優良な企業に奈良県へ立地いただけるよう、引き続き積極的に企業誘致活動を行ってまいります。</p>	

質問②	地域共生社会とは、地域住民や地域の多様な主体がともに参画し、人と人、人と資源が世代や分野を越えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会とされています。「住んで良し、働いて良し、訪れて良し」の奈良県を目指しておられます。しかし、特に人口減少率、高齢化率ともに進んでいる奈良県では、住民が互いに助け合う、自助、共助がさらに必要不可欠であると考えます。また、こうした中で、今後県内の人口増加について、また経済効果の見通しについて伺います。(上牧町在住者)
<p>我が国の人口は、平成20年以降、既に減少局面に入っていますが、5年に一度の国勢調査においては、平成27年調査で初めて減少となりました。奈良県は、既に平成17年の国勢調査から減少しています。</p> <p>本県にとって、人口減少への対応は、高齢者への対応と若者への対応の2つの大きな要素があります。2つのバランスをとり、できれば若者にはとどまってもらい、高齢者を大事にし、県の活力を維持できるような世代間のバランスをとることが人口減少対応、少子</p>	

化対策の充実などの基本的課題だと思います。

これらを含めた県全体の課題を解決するため、奈良の将来のために一番大事な投資は何かを考え、平成27年に「奈良県地方創生総合戦略」を策定しました。これからも、市町村とともに戦略の考え方を共有化して、これを着実に実行していきたいと考えています。そうすれば、人口減少は必ずしも悲観的でなく、力強く住みやすい奈良をつくることができると思っています。

質問③

河合町には観光資源として馬見丘陵公園があります。奈良県馬見丘陵公園では四季折々のイベントが開催され多くの来場者が訪れます。河合町の知名度をあげるのに大いに活用出来ればと思っています。

そこで、例えば、奈良県の特産品や河合町の特産品のお土産店舗の設置や体験型のイベント等を企画してリピーターを増やすなどいかがでしょうか。(河合町在住者)

馬見丘陵公園では、平成22年に「全国都市緑化ならフェア」を開催したことを契機として、4月の「チューリップフェア」、6月の「花菖蒲まつり」、8月の「ひまわりウィーク」、10月の「馬見フラワーフェスタ」、12月の「クリスマスウィーク」など四季折々の花を中心とするイベントを開催し、いずれも好評を得て、今では年間100万人を超える皆様にお越しいただいています。

これらのイベント期間中には、「河合町&広陵町の地域物産品販売」、「植木市」、「フラワーマーケット」、「奈良県産さくらんぼのPR販売」、「馬見グルメストリート」など河合町や広陵町も含めた奈良県の特産品や花卉類、食事などを販売するとともに、体験型のイベントとしては音楽コンサートや子供のための衣装体験やフェイスペイント、園内ガイドツアーなどを実施しています。

これらを常設で実施できるかどうかについては、採算性や実施主体等を考慮し、河合町や広陵町等ともよく相談しながら検討を進めていきたいと考えています。

今後とも、馬見丘陵公園が魅力的な公園となるよう努力してまいりますので、引き続きご支援をお願いします。